

5月18日 聖日礼拝レジュメ 使徒の働き 3章22～26節

- ① 申命記18章15節「あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたのために起こされる。あなたがたはその人に聞き従わなければならない。」

19節「わたしの名によって彼が告げる、わたしのことばに聞き従わない者があれば、わたしはその人に責任を問う。」

- ② レビ記23章29節「その日に自らを戒めない者はだれでも、自分の民から断ち切られる。」

主が起こされる一人の預言者とは？モーセのような預言者＝第二のモーセ。ペテロは、イエスこそ、その方だと明らかにする。モーセが出エジプトを成し遂げたように、イエスは人々に対する罪からの救いを成し遂げた。「あなたがたはその人に聞き従わなければならない。」と言われているにもかかわらず、イスラエルの民はこのイエスに聞き従わなかったわけですから、「その預言者に聞き従わない者はだれでも、自分の民から断ち切られる」と言われているようにイスラエルの民の罪は非常に重い。

24節の「またサムエルをはじめ、彼に続いて語った預言者たちもみな、今の時について告げ知らせました。」とは、メシヤの時代の到来による祝福。「今の時」＝イエスがもたらした神の国、すなわち神の支配。

- ③ サムエル記第二7章13節「彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王座をどこしえまでも堅く立てる。」の「彼の王座をどこしえまでも堅く立てる」との預言がイエスにより成就。

「あなたがたは預言者の子であり」＝預言者たちが告げ知らせたことが成就することを信仰をもって期待しながら待つべきであり、その成就によって彼らは神から大きな祝福を受けるはずだった。「契約の子」＝神が父祖たち（アブラハム、イサク、ヤコブ）と結ばれた契約。それによって、祝福が約束されていた。

「神はまず、そのしもべを立てて、あなたがたに遣わされました。」そのしもべ＝主イエスキリスト。神は、あわれみをもって、イエスを遣わされ、預言者たちを通して語られた悔い改めによる神との関係の回復の約束がなされ、父祖たちと結ばれた契約による祝福にあずかるためにも悔い改めて神に立ち返らなければならない。

「あなた方一人ひとりを悪から立ち返らせて、祝福にあずかせてくださるのです。」＝イエスにより悪から立ち返って始めて、祝福にあずかることができるそれは、イスラエルに対するあわれみを神は忘れない。その祝福は異邦人である私たち一人ひとりにまで及んだ。祝福にどれほどの価値を置いているか。信仰生活の中でも悔い改めて、悪から神に立ち返り、祝福にあずかり続ける。

- ④ ヨハネの手紙第一 1章 8, 9節 「もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」